

■新濃尾大橋架橋促進期成同盟会総会

濃尾大橋の渋滞緩和、防災対策、愛知県(一宮市、稲沢市)と岐阜県(羽島市)の経済・文化等の更なる交流へ新濃尾大橋(尾州大橋?)の総会が行われ令和7年度事業完了を決議(国へ要請)しました。長大橋の概要は設計速度 60 km/s、有効幅員 11.5m(2車線、片側歩道)、橋長 759m、全体事業費約 290 億円です。

■稲沢市議会新議長に吉川隆之氏

議長: **吉川隆之氏**(祖父江 4 期) 副議長: **服部礼美香氏**(千代田 3 期)

議会選出監査委員: **菅我部博隆氏**(祖父江 5 期)

総務委員会 平野賀洋子委員長 鈴木純子副委員長

(大野紀之 杉山太希 津田敏樹 吉川隆之 六鹿順二 木全信明 平野泰弘)

文教厚生委員会 岡野次男委員長 鶴野大助副委員長

(北村太郎 黒田哲生 服部礼美香 志智 央 朽本敏子 菅我部博隆 山田崇夫)

経済建設委員会 近藤治夫委員長 日比野貴子副委員長

(土岐優子 平床健一 木村喜信 星野俊次 服部俊夫 小柳彩子)

議会運営 津田委員長 志智副委員長 **議会改革** 星野委員長 杉山副委員長

広報広聴 平床委員長 服部(俊)副委員長 (敬称略、順不同、太字は市民クラブ所属)

■トピックス

●県消防操法大会第1分団出場!

稲沢市消防操法大会で優勝した第1分団(稲沢市民センター地区)が各分団並びに関係の皆様にお支え頂き日進市で行われた県大会に出場し敢闘賞に! 地域の守り手として仕事をしながら市民の安全安心のために訓練に励み活動している消防団に皆様のご理解とご協力、ご支援をお願いします。



●稲沢市戦没者追悼式

稲沢市では 2,386 人の方々戦火に倒れられた終戦から 79 年の歳月が流れた戦没者追悼式で地元県議を代表し県議会で採択した「ガザ地区における人道上の危機的状況の改善と速やかな停戦の実現を求める決議」にも触れ恒久平和の確立を誓い謹んで哀悼の誠を捧げました。(写真は木全市議から)



●稲沢市障害者スポレク大会

稲障連(竹内会長)やボランティアの皆様等のご尽力で開催、鈴木は地元県議を代表して「スポーツがつなぐ愛知の未来」と題した県のスポーツ推進計画(障がい者のスポーツ参加が 2 割程度と全国(3 割)より少ない)や関係の皆様の競技参加、パラスポーツと言う名称のアンバサダーなど挨拶しました。



●第49回稲沢市高齢者芸能大会

老人クラブ連合会(家田尚彦会長)はじめ関係の皆様のご尽力で盛大に開催されました。鈴木純からは日頃の皆様の地域での活躍に感謝し、練習の成果をご披露頂き、引き続き健康にご留意され元気に稲沢をお支え頂くように、また巨大地震注意にも触れて災害時の避難行動等をお願いしました。



●ユーロヴェロに憧れて

稲沢市議会の傍聴にヨーロッパの自転車ルートユーロヴェロの番組に感化されて先日購入した自転車を初乗り、走っている時は風を切って快適でしたが自転車置き場に停める時から汗が吹き出して議会の控室で氷入りのお茶を頂いてやっと一息、なんとか岡野市議の一般質問の傍聴をさせて頂きました。



●連合愛知尾張南地協「最賃」

連合愛知尾張南地域協議会(代表:後藤豊田合成労組委員長)の街頭活動で10月1日より愛知県の地域別最低賃金が1,077円(前年度の1,027円から50円UP、金額・引上げ額とも過去最大)となる広報で、南地協所属の組合役員の皆さんや政策推進議員の木全、星野、岡野の稲沢市議らと参加しました。



愛知県議会報告 J-PRESS

あいち民主県議団

責任者: 鈴木純 名古屋市中区三の丸1-2
代表電話 052-961-2111 FAX052-961-3766

愛知県議会報告はあいち民主県議団及び議員に交付されている政務活動費を充当して作成・配布しています。県政へのご意見をお寄せください。

ステーション A i 2024.10.31 G. OPEN!

10月11日に閉会した愛知県議会9月定例会では、愛知県基幹的広域防災拠点の第2期や三河地区の一時保護所の整備、児童虐待防止対策の強化、医療機関の新興感染症対策の強化、交通死亡事故抑止など一般会計補正予算 169 億 7,431 万円(財源内訳は国庫支出金 66.8 億円、県債 89.2 億円、繰越金 12.3 億円等)に加え、総選挙費用の追加も含め人事案件等すべての議案を可決・同意しました。

主な補正項目は公共事業関係が約 164 億円、**基幹的広域防災拠点 2 期の整備推進**に 1,677 万円(災害時に支援部隊のベースキャンプ等の役割を果たす防災公園のアドバイザー契約)



開催が決定した **2028 年技能五輪国際大会**の準備推進に 4,102 万円(“技能がつなぐ持続可能な未来”へ世界 65 개국・地域の青年技能者が集う来場者 3 万人規模の大会)などです。



犬山頭首工小水力発電所完成

今年度の一般会計収支予算は9億4,619 万余円、賦課金は1 千 m³(約1反)につき5,240 円、農地転用決済金は同33 万5 千円です。特別会計は太陽光発電事業及び小水力発電事業の2会計です。

未来へつなぐまちづくりへ一生懸命働きます。

昨年度決算は例年通り特別委員会を設置し(鈴木は公営企業会計決算特別委員会委員に)、閉会中の審査となりました。

さて、プレッシャーのなかドジャーズの**大谷翔平選手が“50-50”**を見事達成! 記録は 54-59 まで伸ばし 130 打点、打率.310 と素晴らしい成績でした。

政界では**“野田元総理 vs 石破新総理”**で戦後最短での総選挙になりました。



加藤市長 近藤さん 大村知事 いなっぴー サリオパーク祖父江で開催の稲沢サンドフェスタ 2024 に大村知事が2人登場! 砂像は Team ひで(近藤英樹代表)さんの作品

宮田用水土地改良区理事長に就任

宮田用水は1608年(慶長三年)に木曾川から取水する大野杵を設けたのが始まりで、その後宮田用水土地改良区へ改組、国営事業による犬山頭首工(宮田、木津、羽島の各用水)から取水しています。

受益地区は、一宮市、名古屋市、稲沢市など8市2町、受益面積は約5千2百ha、組合員数は約5万5千人です。維持管理施設は、ほぼパイプラインの用水路が35 路線、総延長330 km。分水口が約2 千5 百か所をはじめ、排水専用となった旧水路30 路線、延長170 km、補給水の供給施設として揚水機場90 か所などです。



愛知県議会議員 (稲沢市選出) SUZUKI

すずき 純



■農林水産委員会質問



Ans.: 本年の斑点米カメムシ類の捕獲数は農業試験場の調査では平成捕獲数の2.9倍と過去10年で最多の状況、昨年の大きな被害は出穂期の防除の遅れ等が考えられ、昨被害が大きかった海部地区で農業改良普及課がJAと協働して啓発資料をJA広報誌に折り込み配布やラジコンヘリによる共同防除などを実施、他の地域にも積極的に情報発信して防除の徹底を図った。

ドローンの活用について 県外調査で、ドローンによるセンシング技術の活用などのほかに、鉄コーティングした種粒をドローンにより1反当り5分ほどで播種する事例を拝見した。ドローンは農薬や肥料の散布を省力的に行うスマート農業機械であると認識していたが、本県におけるドローンの導入台数や用途等の実態及び、大型ドローンの購入・活用が難しい小規模農家等に対し、県としてドローンの利用推進の取組を伺う。

Ans.: 本県の水田作では基幹経営体の41%で導入、水稻種粒のたん水直播は豊川市等で導入に向けて試験を実施し、リモートセンシングの実証も豊田加茂地区等で行われている。ドローンは大規模農家や作業の請負業者による作業受託、共同利用等の方法で産地全体での導入が有効、愛西のレンコン産地ではドローンを活用した共同防除を実施。国の補助金の活用等を支援。

■農林水産委員会県外調査

農林水産委員会(豊田市選出桜井秀樹委員長)の県外調査で岡山県赤磐市にある岡山県農林水産総合センター(農業研究所、農業大学校)にて、若木でも収穫量が増え低木化による軽労化につながるY字型栽培や定員35名の農業大学校での取組を調査(畜産の盛んな岡山県だが畜産課程の募集は令和7年度以降中国・四国酪農大学校(中国四国各県+兵庫県の10県対象)へ)。

岡山県森林研究所(勝田郡勝央町)では、ドローン空撮によるスギやヒノキの本数と高さを解析し材積を算出する取組を、農事組合法人寄江原(真庭市)では、スマート農機の導入による労働時間削減及び収量の向上、シェアリングによる稼働率の向上、バイオ液肥など持続可能な中山間地域のスマート農業を調査。

広島県栽培漁業センター(竹原市)では放流用稚魚の大量供給のための栽培漁業の拠点施設のカキ(三倍体まがき・かき小町)幼生の付着・飼育や、オニオコゼ、マダイ等の水槽飼育など安定的な種苗生産の取組について調査。

今回の調査では、特にドローン(ソフト関係も)が価格の低下や操縦性の向上などで利用が拡大している点や稲の直播きなど農業の可能性を広げていること、定着魚や少花粉スギ、牛のげっぐ、温暖化など各県共通する課題でヨコ連携が必要(デジタルの活用でより可能に)なことなどの視点を頂きました。

イネカメムシ被害について 8月30日に農林水産省が発表した、2024年産米の本年8月15日現在の作柄概況によると、青森県が「良」、東北地方などの11道府県が「やや良」となっているほか、最大産地の新潟県や本県など31都府県が「平年並み」、佐賀、長崎、宮崎の3県は「やや不良」となっている。昨年はイネカメムシが大発生し、地域によってはイネカメムシの被害により収量が大きく減少しているが、**今年のイネカメムシの発生状況及び、県としての取組**を伺う。また、令和の米騒動と言われた今年の米不足の要因として、昨年の猛暑の影響もあると言われている引き続きカメムシ対策や高温障害対策に取り組むよう要望。



また、持続可能な農業の一助となる評価の高い「不耕起V溝直播栽培」などの生産技術の構築やスマート技術など積極的に取り組むように要望。



■カーボンニュートラル調査特別委員会

カーボンニュートラル(CN)調査特別委員会で経済産業局から脱炭素に向けた世界の動向や洋上風力発電について聴取しました。

●脱炭素に向けた世界の動向について

CNを表明している国はCOP25終了時点(2019年12月)ではGDPベースで3割未満が**→2024年4月には146ヶ国が年限付きのCN目標を掲げGDPベースで約9割。**

各国の電力構成の比較ではカナダは水力が、フランスは原子力が、中国・インド・インドネシアは石炭が6割超。水力を除く再エネではイギリス・ドイツが4割超。

日本の再エネは2011年度10.4%、2022年度21.7%、2030年度目標は36-38%。30年度目標の項目別では太陽光14-16%、風力5%、水力11%、地熱1%、バイオマス5%で22年度比では**風力が0.9%→5%の最大の伸び率。**



●洋上風力発電

洋上は大量導入、コスト低減、経済波及効果から再エネの切り札。全世界では2018年23GW→2040年562GW(24倍)の見込。2023年10月に国のGI基金「洋上風力発電の低コスト化プロジェクト『フェーズ2浮体式洋上風力実証事業』」の候補海域の一つとして田原市・豊橋市沖における浮体式洋上風力実証実験を選定。計画では渥美半島沖14~18km(水深80~130m)に海上高約280m、出力15MW超のセミサブ型の浮体式洋上風力発電設備が2029年度ごろ稼働予定。

■稲沢市から愛知県要望等



重点項目の祖父江稲沢線の整備促進、三宅川の整備促進、福田川の整備促進のほか、稲沢西春線の早期業化や三宅川橋梁負担金(権現橋)への配慮、国府宮駅周辺町づくりの事業化支援などです。また、尾張西部及び東部地域の5市2町で構成する愛知県尾張水害予防組合の治水工事促進要望では重点の三宅川の改修工事や光堂川の改修工事の促進のほか、福田川、目比川の改修工事の促進要望です。



■愛知県無形民俗文化財 尾張(祖父江)の虫送り

海田幸男祖父江虫送り牧川地区実行委員会会長はじめ地元の方のご尽力で子ども達と開催され、稲の切り株に躓き打ち取られたと伝えられる斉藤別当実盛の“実盛人形”と高張り提灯を先頭に松明の行列をつくり鐘と太鼓を打ち鳴らしながら田んぼ道を練り歩き最後に“実盛人形”を火中に投げ入れて豊作を祈りました。

